大東市埋蔵文化財調査報告第 40 集

飯盛山城遺跡発掘調査概報

― グラウンド造成・ＦＭ送信所建設に伴う ―

２０１６年３月

大東市教育委員会

序　文

今回報告しますのは、昭和６３年と平成元年に実施しました、飯盛山城遺跡における発掘調査の成果です。

飯盛山城遺跡は、中世の山城である飯盛城の城域を想定した、周知の埋蔵文化財包蔵地で、城域は四條畷市側を含めると南北６５０ｍ、東西４００ｍと推定されています。

近年は各地で山城の調査・研究が進みつつあり、近隣では、交野市の私部城において継続的な調査が行われ、また、河内長野市の烏帽子形城は、平成２４年、大阪府下の城郭では、実に７０年ぶりに国の史跡に指定され話題となりました。

飯盛城については、ここ数年来の城郭研究者による現地踏査や教育委員会で実施した測量調査等で、従来の山城のイメージとは異なり、堅固な石垣を随所に設けていたことがわかってきました。また、城主であった三好長慶の研究も進み、織田信長に先んじて、京都を抑え畿内を統一した人物としての歴史的評価がされつつあり、居城であった飯盛城についても関心が高まっています。

大東市は平成２７年、飯盛城を日本の歴史にとって重要な文化財として位置づけ、四條畷市と連携して、国史跡指定に向けての調査・研究をスタートしました。史跡指定を受けるために解決しなければならない課題は多々ありますが、着実に進めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、発掘調査に関してご理解と多大なるご協力をいただきました事業者を始め、関係者各位に感謝の意を表しますとともに、遅ればせながら、調査から３０年近く経過した報告となりますが、この成果が今後の飯盛城の調査・研究の一助になれば幸いです。

平成２８年３月３１日
大東市教育委員会
教育長　亀岡　治義

例　言

1．本書は大東市教育委員会が実施した飯盛山城遺跡の発掘調査概報である。

2．本書には下記の２件の調査成果を所収している。

①大阪産業大学グランド造成工事に伴う調査（昭和63年9月26日～同年10月3日）

調査名：ＩＭＯＩ

②株式会社ＦＭ802送信所建設に伴う調査（平成元年1月9日～同年1月29日）

調査名：ＩＭＯⅡ

3．調査は、大東市教育委員会歴史民俗資料館（調査当時）黒田淳を担当者として実施した。

4．調査に要した費用は、①は学校法人大阪産業大学、②は株式会社ＦＭ802 が負担した。記して感謝の意を表する次第である。

5．調査にあたり、①では東洋建設株式会社、②では住友電気工業株式会社の協力を得た。

6．調査参加者は下記のとおりである。（順不動・敬称略）

①深沢吉隆、大谷聡、小矢田誠司、中村亘登、三宅秀男、石井裕己、山村俊之、広瀬悟郎、玉本雅己、大山清

②大谷聡、大山清、山村俊之

7．「飯盛山城遺跡」は、調査当時の周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の登録名であるが、現在は、名称を変更し「飯盛城跡」となっている。本文中では調査当時の「飯盛山城遺跡」を使用しているが、城そのものを説明する場合は「飯盛城」を使用している。

8．調査で作成した図面並びに、写真、カラースライドは大東市教育委員会で保管している。広く活用されることを望む。

目　次

第１章　位置と環境……1

第１節　地理的環境……1

第２節　歴史的環境……1

第２章　ＩＭＯＩの調査……3

第１節　調査に至る経緯……3

第２節　調査成果……5

第３節　小結……7

第３章　ＩＭＯⅡの調査……8

第１節　調査に至る経緯……8

第２節　調査成果……8

第３節　小結……10

第４章　まとめ……10

遺構一覧表・遺物観察表……11・12

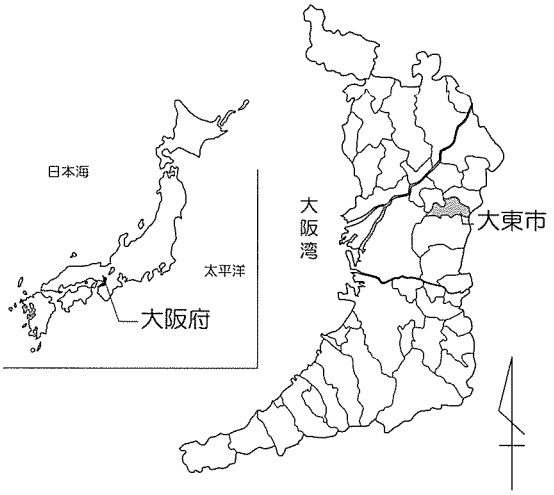
写真……13

報告書抄録

第１章　位置と環境

第１節　地理的環境

飯盛山城遺跡の所在する大東市は、大阪府の北東部に位置する。（第１図）飯盛山城遺跡は、大東市の東部にある飯盛山に築かれた中世の山城である飯盛城の城域と関連遺構を想定して設けられた周知の埋蔵文化財包蔵地（現在の登録名は「飯盛城跡」）で[註1]、その範囲は南北約 1300m、東西約 200～700mとなっている。



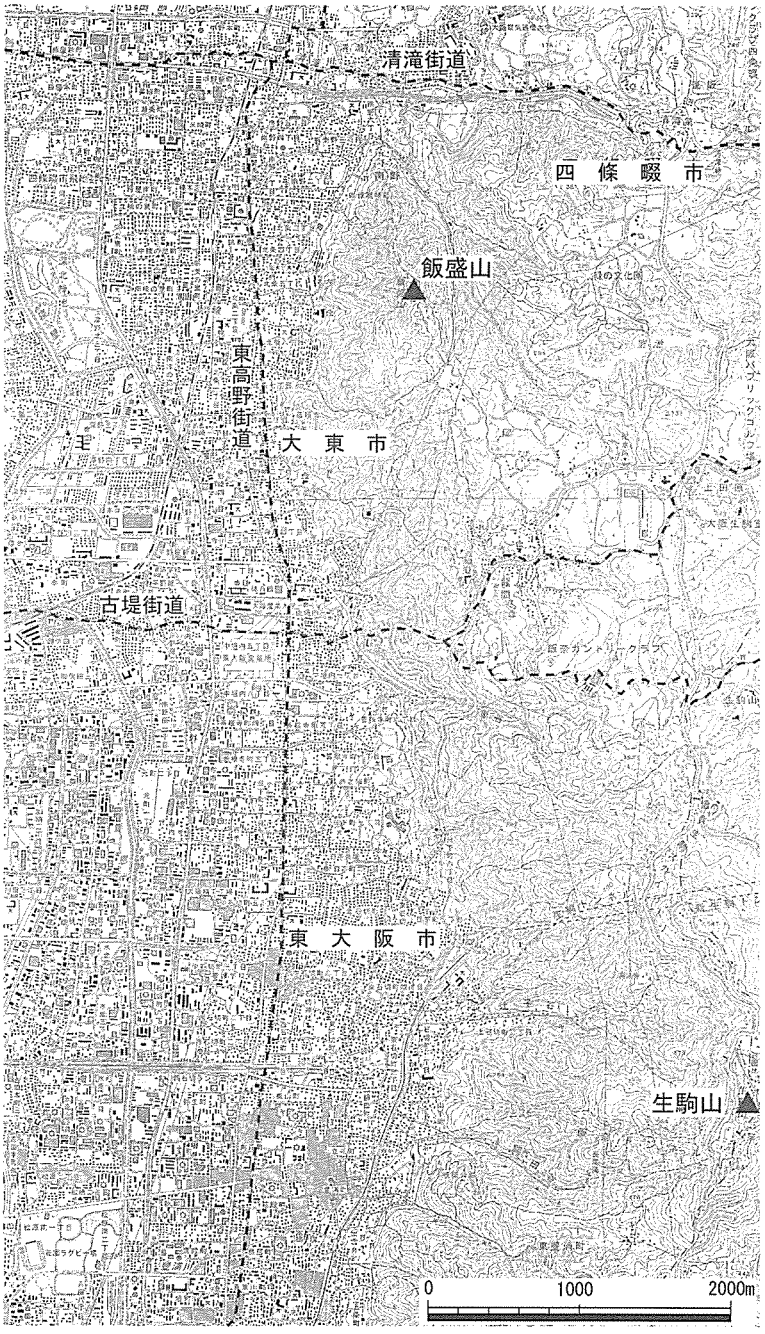
第1図　大東市位置図

飯盛山城遺跡は、北部分の飯盛城が所在する飯盛山が大東市大字北条、南部分が大東市大字龍間に属している。

飯盛山は、河内平野の東部を南北に走る生駒山地の北部を構成している山塊で、標高は約 314mを測り、北部が四條畷市、南部が大東市にそれぞれ属している。（第２図）

飯盛山の地形を概観すると、痩せた稜線が南北に走り、西は平野部へ向かって急俊な尾根が幾筋も派生し、東は、南東方面に位置する室池から流れ出す権現川によって侵食された深い谷が形成されている。北は生駒山地の北端で、急激に高度を下げ、交野台地に向かって細く突き出している。一方、南は緩やかに一旦高度を下げた後、生駒山地の主峰である生駒山（標高 642m）に続いている。

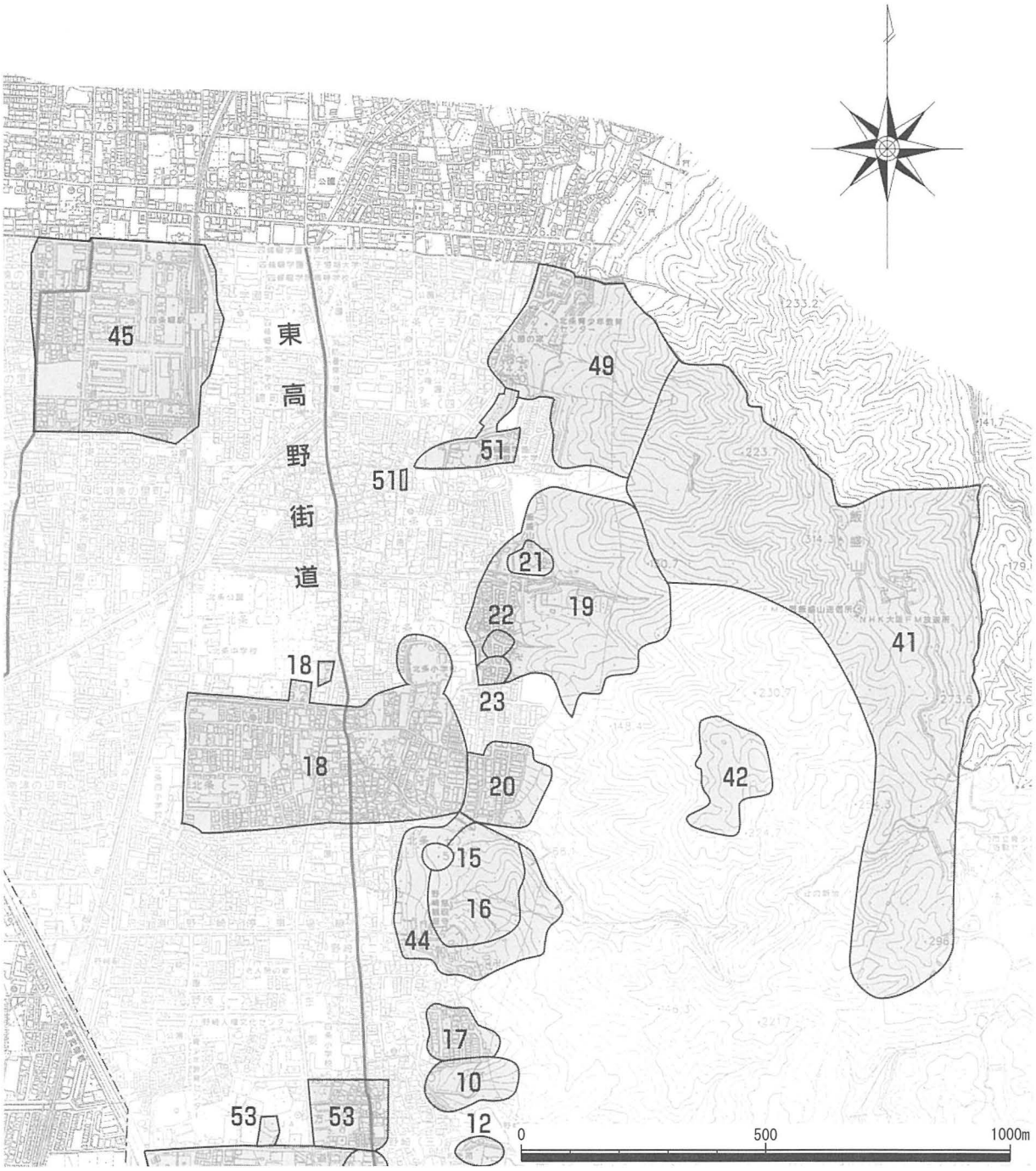
西側に張り出した尾根は幾筋もの谷を形成し、そこから流れ出す中小河川により、裾野には小規模な扇状地が形成されている。



第2図　飯盛山位置図

第２節　歴史的環境

山裾を南北に走る東高野街道沿いの北条、野崎、寺川、中垣内には、多くの遺跡が分布し、扇状地には古代から中世の集落が営まれ、また尾



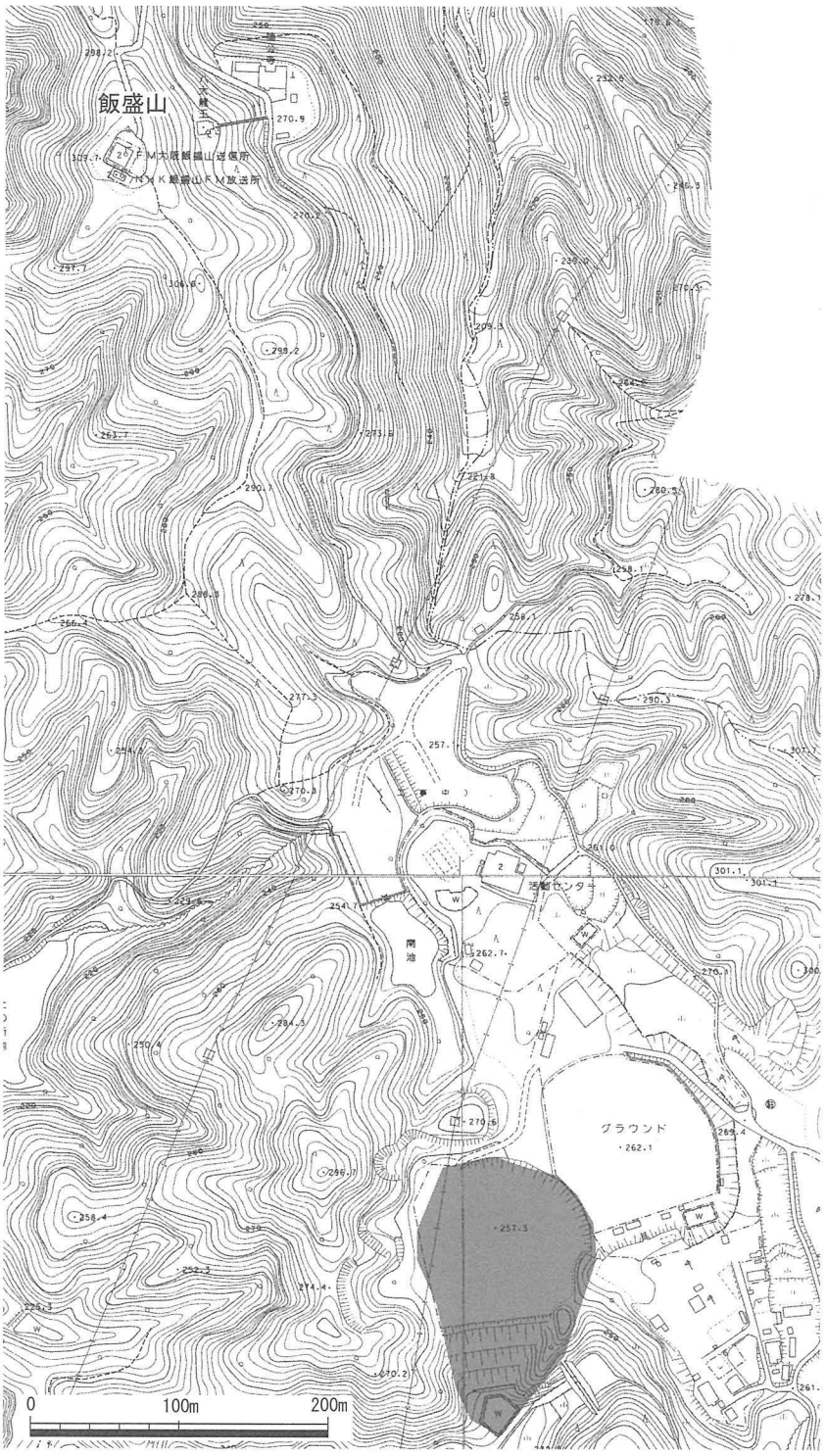
10福連寺遺跡	17福連寺古墳	21北条古墳	42北条東古墳群	51城ヶ谷遺跡
12峯垣内遺跡	18北条西遺跡	22北条南古墳	44野崎城跡	53野崎条里遺跡
15ヤタ山古墳	19宮谷古墳群	23北条遺跡	45北新町遺跡	
16野崎遺跡	20大将軍古墳	41飯盛城跡 （飯盛山城遺跡）	49墓谷古墳群	

第3図　周辺の遺跡分布図

根の先端付近には、古墳が築造されている。（第３図）

南の龍間は、標高 200～350 mの山間部に位置し、現在、大阪と奈良を結ぶ幹線道である阪奈道路が通り、道路沿いの一部は開発が行われているものの、谷あいに存在する集落と耕作地以外は山林となっている地域である。

ここには、弥生時代中期の遺跡が分布しており、弥生土器の他に、サヌカイト製石小刀、磨製石剣等の石器が採集されている（註2）。古墳時代以降中世前半までの様相は明らかではないが、当地の龍光寺には、「延徳二庚戌三月」(1490) の銘が刻まれている延命地蔵（註3）があり、遅くとも中世後半頃までには、集落が形成されていたと考えられている。また、当地域では花崗岩が産出されることから、徳川大坂城再築の際、石垣に使用する石の採石が行われていたことを示す、刻印石、矢穴石（註4）が分布している。



第4図　IMOⅠ調査地位置図

第２章

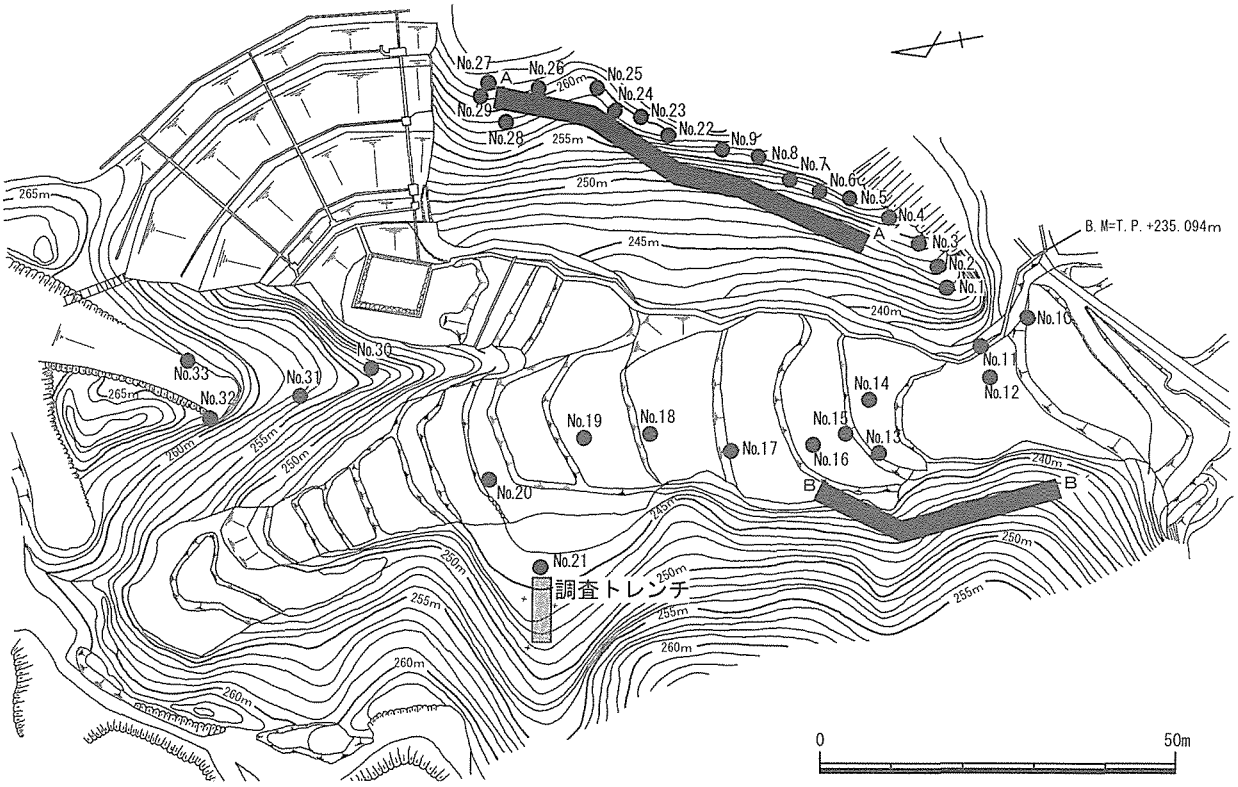
ＩＭＯＩの調査

第１節　調査に至る経緯

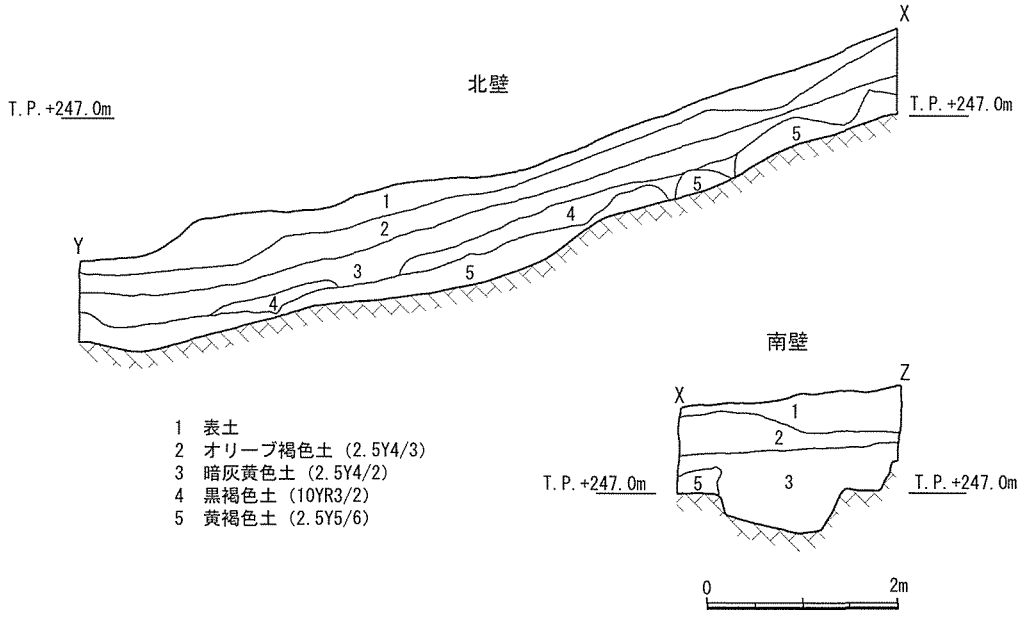
大東市大字龍間 1842-2 外 17 筆において、野球グラウンド造成工事を行う計画が土地所有者である学校法人大阪産業大学より出された。（第４図）工事面積は 14,933.70 ㎡で、その内容は一部切土を行い、南に開口する谷の大部分を埋め、コンクリート重力式擁壁やフトン篭堰堤、調整池を築造する大規模なものであった。工事範囲の一部は、周知の埋蔵文化財包蔵地の飯盛山城遺跡に南接するため、事前の試掘調査を実施することになった。昭和 63 年９月８日付で試掘依頼書が提出され、それに基づき、大東市

教育委員会で試掘調査を実施した。

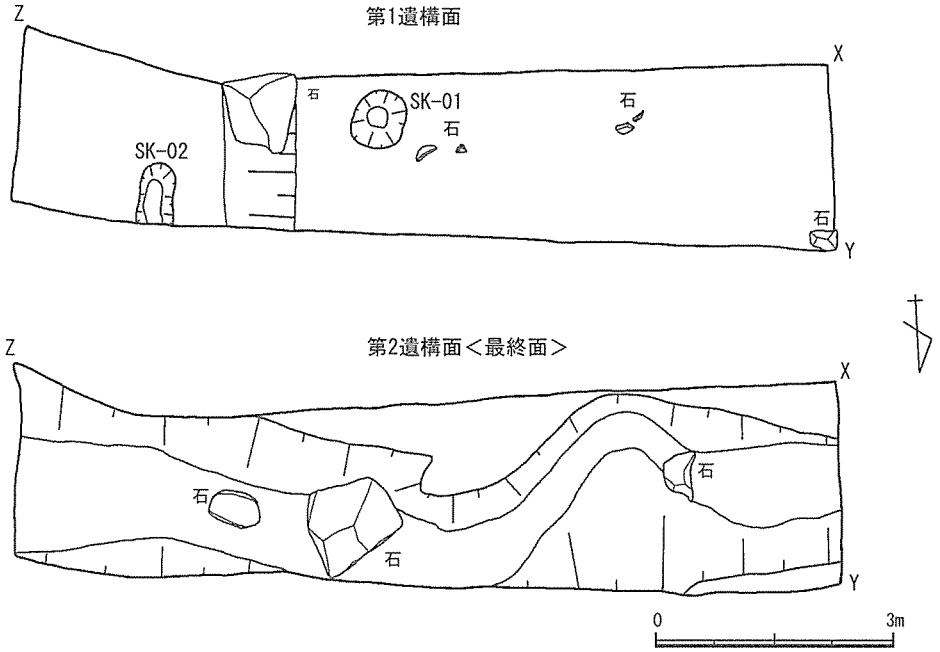
試掘調査は、昭和 63 年 9 月 16・17 日に実施し、1×1m、2×4mのトレンチを合計 33 箇所、さらに詳細な確認が必要な箇所については、各トレンチを繋ぐ形で実施した。試掘調査の結果、トレンチ№21 において、瓦質土器や土師器等の破片が出土し、遺構が残存している可能性が高いため、事業主と協議を行い、発掘調査を実施することとなった。調査は、トレンチ№21 を設定した東方向に開口する谷部分に、3×10mのトレンチを設定して、昭和 63 年 9 月 26 日～同年 10 月 3 日まで実施した。(第 5 図)



第5図　IMOⅠトレンチ配置図



第6図　IMOⅠ調査トレンチ土層断面図



第7図　IMOＩ調査トレンチ平面図

第２節　調査成果

調査地は、東に向かって開口する狭い谷部分で、調査前の標高は、西側がT.P.+約248m、東側がT.P.+約245mを測り、西から東へ傾斜する斜面地であった。

層序（第６図）

１層は表土である。暗灰～黄灰色を呈する腐葉土で、層厚は20～30cmを測る。２層はオリーブ褐色土で、層厚は約20cm、この層を除去すると、次の３層である暗灰黄色土の上面が、焼土坑や土坑を検出した第１遺構面である。３層は層厚20～30cmを測る。４層の黒褐色土は、部分的な堆積状況で、５層の黄褐色土を除去すると、第２遺構面（最終面）のベース層となった地山の土である。花崗岩の培濫土で、硬く締まっており、地表からは約1m程度の深さで検出している。

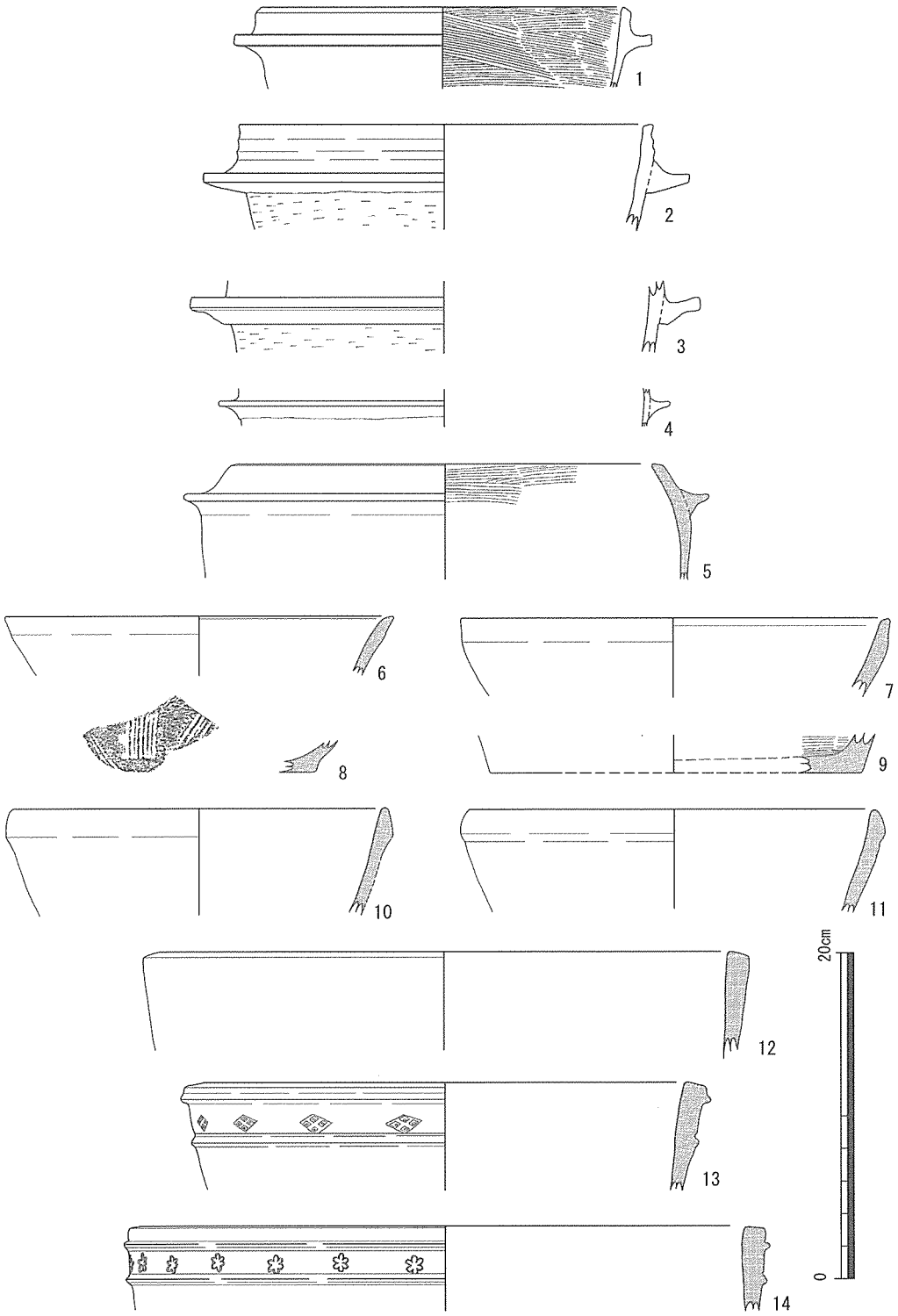
遺構（第７図）

遺構は第１遺構面で検出された、SK－01・02の土坑２基のみである。

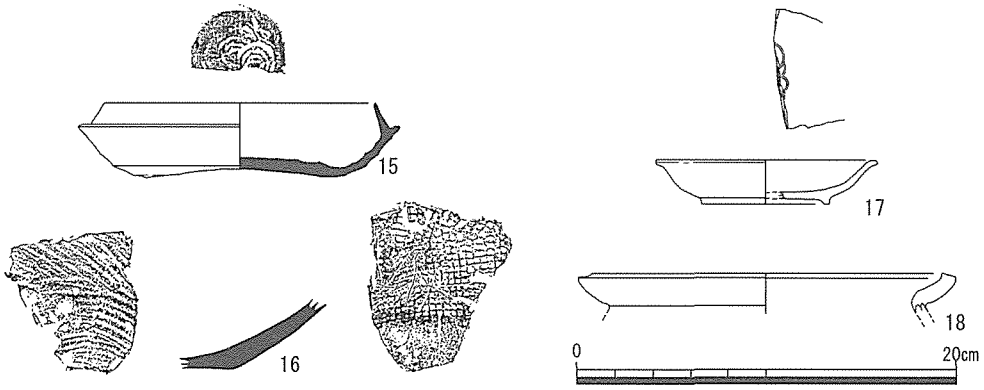
SK－01は、第１遺構面の検出過程で焼土層の広がりが認められ、最終的には0.55×0.65mの楕円形の焼土坑となった。深さは約5cmと浅く、焚火程度の痕跡であった。

不定形の土坑SK－02は0.38×0.78m、深さ20cmを測る。また、第１遺構面では50～60cm大の花崗岩の石を検出しているが、自然石で、転石と考えられる。

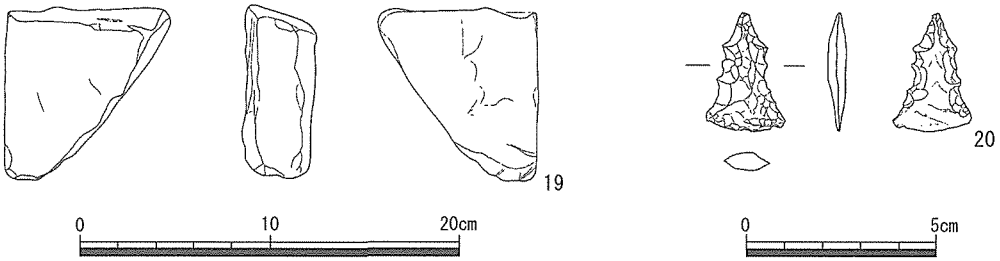
第２遺構面は、地山をベースとして検出した最終面で、幅0.2m、深さ0.4mの流路的な地形を検出している。谷地形に伴う、自然流路的なもので、ここでも内部で花崗岩の石を検出しているが、転石と考えられる。



第8図　IMOⅠ出土遺物実測図(1)



第9図　IMO I 出土遺物実測図(2)



第10図　IMO I 出土遺物実測図(3)

遺物（第8～10図　写真6・7）

遺構からの出土は無く、2～4層からの出土遺物である。2層から土師器羽釜（1・3・4）、瓦質擂鉢（6）、瓦質鉢（9～11）、砥石（19）が、3層から瓦質羽釜（5・18）、瓦質鉢（12～14）、須恵器鉢（16）が、4層から土師器羽釜（2）と、中世の遺物がそれぞれ出土している。また、最下層の5層からは中世の遺物である灰釉陶器皿（17）の他、古墳時代の須恵器杯身（15）サヌカイト製の石鏃（20）が出土している。

また、試掘時にも瓦質捏鉢（7）や瓦質擂鉢（8）が出土している。

第3節　小結

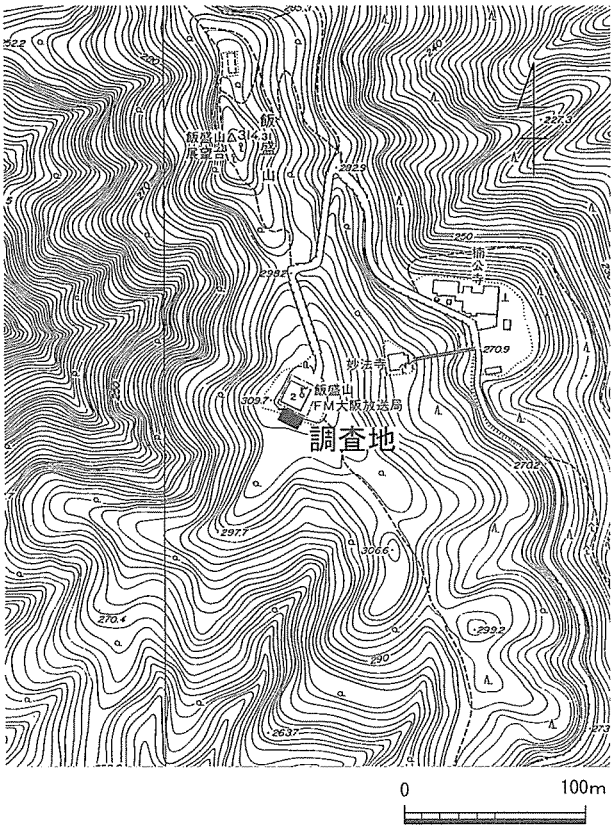
調査の結果、遺構面を2面検出しているが、最終面とした第2遺構面に関しては、谷部分の自然地形を検出したものである。また、第1遺構面に関しても、土坑を2基検出しているものの、遺構からの出土遺物が無かったため、遺構の性格を含め、詳細は不明である。ただ、出土遺物に関しては、試掘調査時の状況から、古くても中世までの範囲で納まるものと考えていたが、石鏃や古墳時代の須恵器が出土したのは予想外であった。調査地は現在の集落からも離れた山中にあり、通常の生活を営む地ではないことを推察するのは容易であり、調査地の場所を考慮すると、出土遺物量は少ないとは言えない。

当地とその周囲で、古くから何らかの人の活動があったことは事実で、これらの遺物は、通常の生活で遺されたものではなく、特別な性格を持った活動によるものと考えられるが、現段階では推測の域を出ない。

第３章　ＩＭＯⅡの調査

第１節　調査に至る経緯

昭和 63 年 10 月、大東市大字北条 2377-16 において、株式会社ＦＭ802 の送信所建設の計画が上がった。同社は翌年（平成元年）６月１日の放送開始に向けて、送信所を飯盛山に建設予定であるとのことであった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地の飯盛山城遺跡にあたるため、文化財保護法による届出の提出を求め、事前に埋蔵文化財の協議を行った。送信所建設予定地は、既設の送信所（ＮＨＫＦＭ・ＦＭ大阪）の南西に隣接した場所（第 11 図）で、当該地は通称「千畳敷郭」(註 5) と呼ばれている飯盛城中では最大の規模を持つ曲輪である。既存の送信所建設時は、発掘調査等は実施されていないが、城郭に関する遺構が残されていることが予想され、大東市教育委員会では当該工事の内容から、遺構に影響を及ぼす可能性があると判断し、工事に先立つ確認調査を昭和 63 年 12 月 23 日に実施した。調査の結果、瓦質土器や土師器片が出土し、焼土や炭化層等が確認されたことから、発掘調査を実施することとなった。



第11図　IMOⅡ調査地位置図

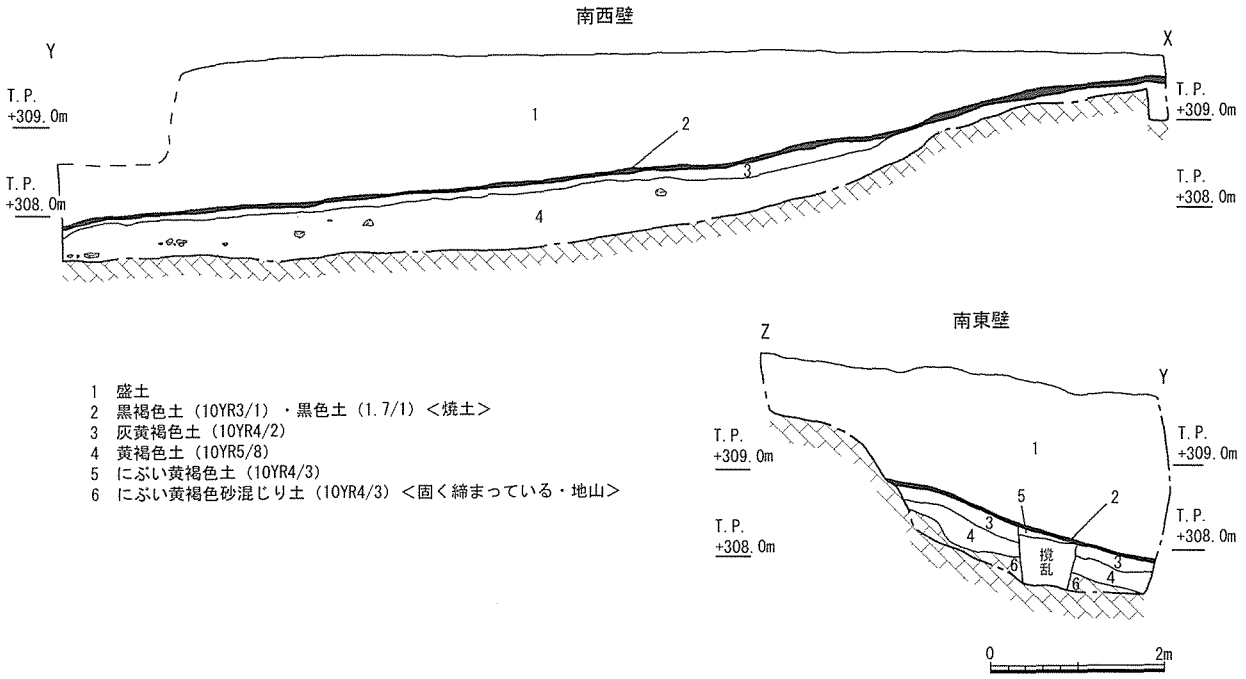
調査は送信所建設予定地に 6×12mの調査トレンチを設定して、平成元年１月９日～同年１月 24 日まで実施した。

第２節　調査成果

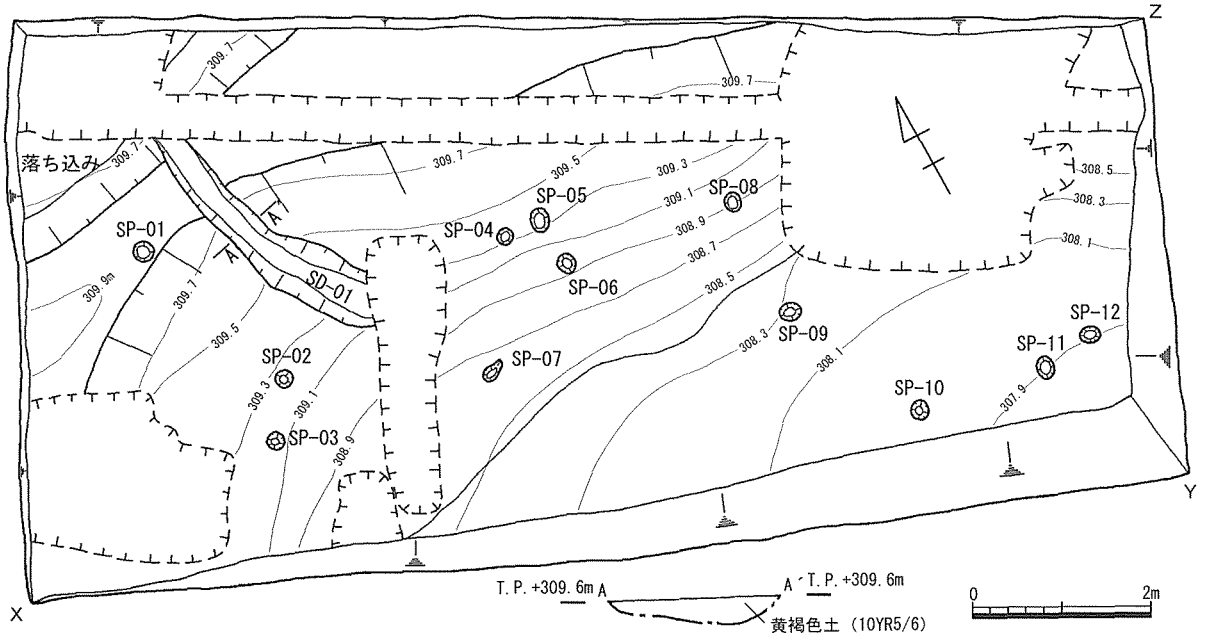
調査地は、既設のＦＭ送信所の南西側の平坦地で、調査前の標高は T. P. +310m前後を測った。

層序（第 12 図）

1 層は盛土である。既設のＦＭ送信所建設時の整地に伴い、削平された土が南西側に押され堆積したものと考えられる。2 層は炭化した植物が含まれている焼土で、約 5cm の層厚で調査区全体に堆積していた。検出状況から、山焼きが行われたような様相を呈している。盛土される前の地表面であり、検出面の標高は、北西隅で T. P. +約 309. 5m、南東隅で T. P. +307. 8mを測り、北西から南東方向に傾斜している。3 層は灰黄褐色土で、2 層の直下に約 5cm の層厚で堆積する。4 層は第 1 遺構面のベース層となっている黄褐色土で、調査区の南東部に集中して、10～15 cm大の礫が含まれていた。4 層を掘り下げていくと、凡そ 30～50cm で地山に到達する。地山は花崗岩の培濫土で、硬く締まった層である。



第12図　IMOⅡ調査区土層断面図



第13図　IMOⅡ第1遺構面平面図

遺構（第13図）

調査では遺構面を2面検出したが、同一遺構面として考えている。遺構は、北西から南東方向へ傾斜する斜面地においてピット（SP－01～12）、溝（SD－01）が、調査区北西隅で落ち込みが検出された。

ピットは径20～30cm程度で、平面形、規模ともほぼ揃っているが、深さは10cmと浅いものや、40cmを測る深いものもあった。埋土は何れも上層の3層と同じ灰黄褐色土であった。

溝SD－01は、斜面と同じ北西から南東方向に検出している。両端とも撹乱により切られているが、南東方向は撹乱を越えて検出されていなので、この付近で終わっているものと考えられる。北西端は、調査区の北西隅で検出された落ち込みの地山が立ち上がり、最も高くなる付近から始まっている。深さは約12cmで、埋土は黄褐色土であった。

落ち込みは北西に向かって地山が急激に下がっており、深さは約80cmまで確認している。調査区隅での検出であったこと、大半が撹乱により切られていたが、この撹乱は既設の送信所への電力供給ケーブルが埋設されていたため、掘削深度が制限され、完掘できていない。したがって、本来の深さは確認できていない。

遺物（写真7・8）

遺構からの出土遺物は無く、土師器片、瓦質土器片、陶器片等が出土しており、何れも小片である。図化はしていないが、土師器は皿、包絡類、瓦質土器は鉢、火鉢の類と見られ、15～16世紀のものと推定される。

第3節　小結

調査を実施したのは、「千畳敷」と呼んでいる城中で最も広い曲輪とされているところである。調査面積が狭小なため、検出された遺構の性格は不明である。詳細は明らかにし得ないが、調査区北東隅で検出した落ち込みは、城郭関連のものとすれば、掘切の可能性も推定される。

第4章　まとめ

ＩＭＯＩの調査では、遺構は希薄ではあったが、出土遺物は幅広い時代のものが出土している。特に、須恵器杯身は、近くに古墳の存在を想定されるものである。これまでの周辺の状況や、採集遺物を見ると、当地から南へ約1kmの地点で、平安時代の蔵骨器と推定される須恵器壺、灰釉陶器壺が採集された太鼓山遺跡(註6)があり、今回の調査地のような生活域から離れた山中に、当時の墓域等の存在が推定される。中世の遺物に関しては、飯盛城期と同時期のものである。城域外ではあるが、比較的攻めやすいとされる、南の防御を固めるための、臨時的な施設等の存在も推定される。

ＩＭＯⅡの調査は、飯盛城中最大の曲輪での、しかも城域内では初めて実施した調査であったが、調査面積が狭小であったため、検出した遺構の性格を述べるのは、現段階では困難である。しかし、調査区北西隅で検出した落ち込みは、北西に向って急激に落ち込んでおり、周囲の地形から判断すると、不自然な形状であることから、人工的に地山を削った掘切の可能性もある。

城域内では、この調査の後今日に至るまで調査は行われておらず、遺構の性格を明らかにするためには、周囲での調査を実施し、その成果を以て検証する必要があると考える。

註

(1) 平成27年に名称変更。

(2) 弥生土器は国見高地性遺跡、石小刀は龍間遺跡、磨製石剣は龍間ハンサカ遺跡で出土している。

(3) 大東市指定文化財第3号「石造地蔵菩薩立像」

(4) 「輪違い」、「足立」等の刻印石が出土している。また、「分銅」の刻印も分布している。

大東市埋蔵文化財調査報告第32集『石切場跡発掘調査報告書ー徳川大坂城再築工事関連の石切場跡調査ー』2012大東市教育委員会

(5) 『大東市史』1973大東市教育委員会

(6) 調査地があった、南へ開口する谷を下った地点に位置している。

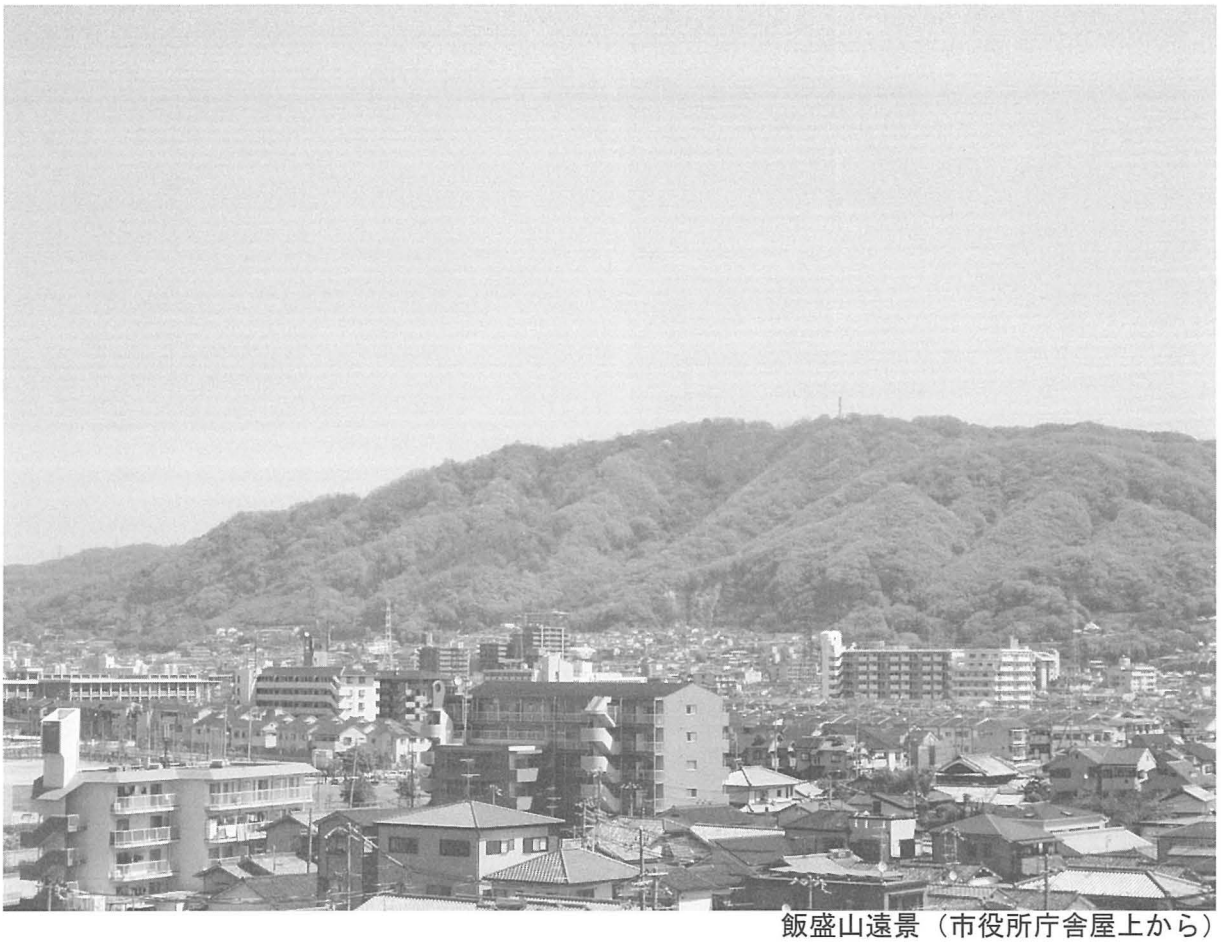
IMO遺構一覧表

番号	調査地	検出規模(m)	深さ(m)	形状・方向	柱痕径	埋　土	主な出土遺物・時期	備　考
SK-01	IMO Ⅰ	0.55×0.65	0.05	楕円	—	オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 焼土・炭混じり	—	焼土抗
SK-02	IMO Ⅰ	0.38×0.78	0.2	N→S	—	オリーブ褐色土(2.5Y4/3)	—	北側側溝に切られる
SD-01	IMO Ⅱ	0.35×2.95	0.12	円弧	—	黄褐色土(10YR5/6)	—	両端を撹乱に切られる
SP-01	IMO Ⅱ	0.25	0.15	円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	第2遺構面(最終面)
SP-02	IMO Ⅱ	0.22	0.15	円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
SP-03	IMO Ⅱ	0.2	0.35	円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
SP-04	IMO Ⅱ	0.19	0.39	円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
SP-05	IMO Ⅱ	0.23×0.31	0.53	長円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
SP-06	IMO Ⅱ	0.2×0.25	0.44	楕円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
SP-07	IMO Ⅱ	0.17×0.27	0.34	不定形	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
SP-08	IMO Ⅱ	0.17×0.19	0.33	楕円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
SP-09	IMO Ⅱ	0.22×0.25	0.28	楕円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
SP-10	IMO Ⅱ	0.19	0.23	円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
SP-11	IMO Ⅱ	0.2×0.26	0.22	楕円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
SP-12	IMO Ⅱ	0.21×0.24	0.29	楕円	—	灰黄褐色土(10YR4/2)	—	
落ち込み	IMO Ⅱ	(2.1)×(3.8)	0.8	W→E	—	黄褐色土(10YR5/8)	—	調査区北隅で検出 撹乱に切られる

IMO I 遺物観察表

番号	遺構・層位	層名	法量(cm)	種類	器 種	特　　徴	色　調	胎土・焼成	備 考
1	2層	オリーブ褐色土	口径:(16.2) 器高:(4.9)	土師器	羽釜	・幅狭の鍔 ・口縁部は垂直に立ち上がる ・口縁端部は外頃する平坦面を持つ ・外面はヨコナデ、内面はナナメハケメ	外・内・断:灰黄色 (2.5Y7/2)	粗 やや軟	摂津型？
2	4層	黄褐色土	口径:(25.2) 器高:(6.5)	土師器	羽釜	・口縁部は外傾気味に立ち上がり、端部は内傾する面を持つ ・外面鍔部より上方ヨコナデ、下方はケズリ ・下方は煤けている ・鍔部下面は未調整 ・内面は板状工具によるナデ	外・内・断:淡黄色 (2.5Y8/3)	粗 やや軟	
3	2層	オリーブ褐色土	口径:(-) 器高:(4.8)	土師器	羽釜	・口縁部、体部とも欠く ・やや上方に立ち上がる鍔で、端部に明確な面を持つ	外・内・断:橙色(5YR6/6)	やや粗 やや堅緻	
4	2層	オリーブ褐色土	口径:(-) 器高:(2.3)	土師器	羽釜	・鍔部分のみ残存 ・鍔上方は煤けている ・やや上方に立ち上がる鍔で、端部に明確な面を持つ ・外面、内面ともにヨコナデ	にぶい黄褐色(10YR5/4)	やや密 やや軟	
5	3層	暗灰黄色土	口径:(26.4) 器高:(6.5)	瓦質土器	羽釜	・体部から内湾する口縁部に、幅狭の華奢な鍔が付く ・口縁端部は平坦面を持つ ・鍔先端部は丸味を帯びて終わる ・鍔部はヨコナデ、体部外面は板状工具によるナデ ・口縁部内面にハケメ	外:灰白色(5Y6/1) 内:灰黄色(5Y7/2) 断:灰白色(5Y8/2)	やや粗 やや軟	三足
6	2層	オリーブ褐色土	口径:(24.0) 器高:(3.5)	瓦質土器	擂鉢	・口縁部は直線的に立ち上がり、端部は尖り気味に終わる ・外面、内面ともに摩耗が著しいが、ヨコナデか ・口縁端部外面に強いヨコナデ	外:灰色(7.5Y5/1) 内:灰白色(2.5GY8/1) 断:浅黄色(5Y8/3)	やや密 やや軟	
7	試掘	-	口径:(26.0) 器高:(5.9)	瓦質土器	捏鉢	・やや内湾気味に立ち上がる口縁部 ・口縁端部は内傾する面を持つ ・外面、内面ともにヨコナデ	外・内:灰色(5Y5/1) 断:灰白色(5Y8/2)	やや粗 やや軟	
8	試掘	-	口径:(-) 器高:(1.9)	瓦質土器	擂鉢	・底部片 ・外面はタテハケ、内面に7条/1.7cmの溝	外:灰オリーブ色(5Y6/2) 内・断:灰白色(5Y7/2)	やや密 やや軟	
9	2層	オリーブ褐色土	底径:(22.5) 器高:(2.3)	瓦質土器	鉢	・底部、外面調整不明 ・内面にハケメ(6条/1cm)	外・内・断:灰白色 (2.5GY8/1)	やや密 やや軟	
10	2層	オリーブ褐色土	口径:(22.5) 器高:(7.7)	瓦質土器	鉢	・口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に終わる 外面、内面ともに摩耗が著しく、内面は表面の剥離が著しい ・外面口縁部付近は煤けている ・内面は摩耗のため剥離が激しい	外・内・断ともに淡黄色 (2.5Y8/3)～灰白色 (2.5Y8/2)	やや粗 軟	
11	2層	オリーブ褐色土	口径:(24.6) 器高:(5.9)	瓦質土器	鉢	・口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は丸味を帯びて終わる 内面は摩耗が著しく、表面の剥離が著しい ・外面口縁部付近はヨコナデ	外:淡黄色(2.5Y8/3) 内・断:灰白色(2.5Y8/2)	やや粗 軟	
12	3層	暗灰黄色土	口径:(34.4) 器高:(6.0)	瓦質土器	鉢	・口縁端部は外頃する広い平坦面を持つ ・内外面ともヨコナデ	外:灰白色(5Y7/1) 内:灰黄色(2.5Y7/2) 断:にぶい黄橙色 (10YR7/2)	密 やや軟	火鉢
13	3層	暗灰黄色土	口径:(31.7) 器高:(6.6)	瓦質土器	鉢	・口縁端部は外頃する広い平坦面を持つ ・口縁部外面に2条の突帯、その間に菱形(四菱文)のスタンプ ・外面、内面ともに磨耗が著しいがナデ調整	外:灰色(5Y5/1) 内:灰色(7.5Y5/1) 断:灰白色(2.5Y8/1)	密 軟	奈良火鉢
14	3層	暗灰黄色土	底径:(37.8) 器高:(5.0)	瓦質土器	鉢	・口縁端部は広い平坦面を持つ ・口縁部外面に2条の突帯、その間に花形(菊花文)のスタンプ ・外面はヨコナデ、内面は板状工具によるナデ	外:灰白色(5Y8/2) 内:灰色(5Y6/1) 断:灰白色(2.5Y8/1)	密 軟	奈良火鉢
15	5層	黄褐色土	口径:(14.0) 器高:(3.9)	須恵器	杯身	・短く傾斜するたちあがりで、端部は丸く終わる ・外面は底部に約1/3の回転ヘラケズリ ・内面は回転ナデ ・内面底部に同心円タタキとナデを施す	外・内・断:灰色(N6/)	密 堅緻	Ⅱ-4～5 6C中～後
16	3層	暗灰黄色土	口径:(-) 器高:(3.7)	須恵器	鉢？	・外面は格子タタキに部分的にナデ ・内面は粗いハケメ	外:灰色(N5/) 内・断:灰色(N6/)	粗 堅緻	底部片
17	5層	黄褐色土	口径:(11.8) 器高:(2.3) 底径:(6.7)	灰釉陶器	皿	・「ハ」の字状に開く体部から、口縁部は外反して終わる ・見込みに花文 ・底部外面にトチンの跡	外・内:灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 断:灰色(7.5Y7/1)	密 堅緻	
18	3層	暗灰黄色土	口径:(18.8) 器高:(2.0)	土師器	羽釜	・「く」の字に屈曲する口頸部 ・内湾気味に外頃する短口縁部 ・口縁端部は平坦面を持ち内側に肥厚する ・外面、内面ともナデ	外・内:にぶい黄橙色 (10YR6/4) 断:黒色(7.5YR2/1)	堅緻 やや粗	大和型
19	2層	オリーブ褐色土	長:9.0 幅:8.6 厚:3.9 重:387.5g	石製品	砥石？	・側面に人為的な平坦面	灰白色(5Y8/1)	-	凝灰岩製
20	5層	黄褐色土	長:3.2 幅:2.1 厚:0.5 重:3g	石器	石鏃	・平基式 ・先端部を欠く	灰色:(N4/)	-	サヌカイト製

写真1　飯盛山写真



飯盛山遠景（市役所庁舎屋上から）

飯盛山周辺航空写真

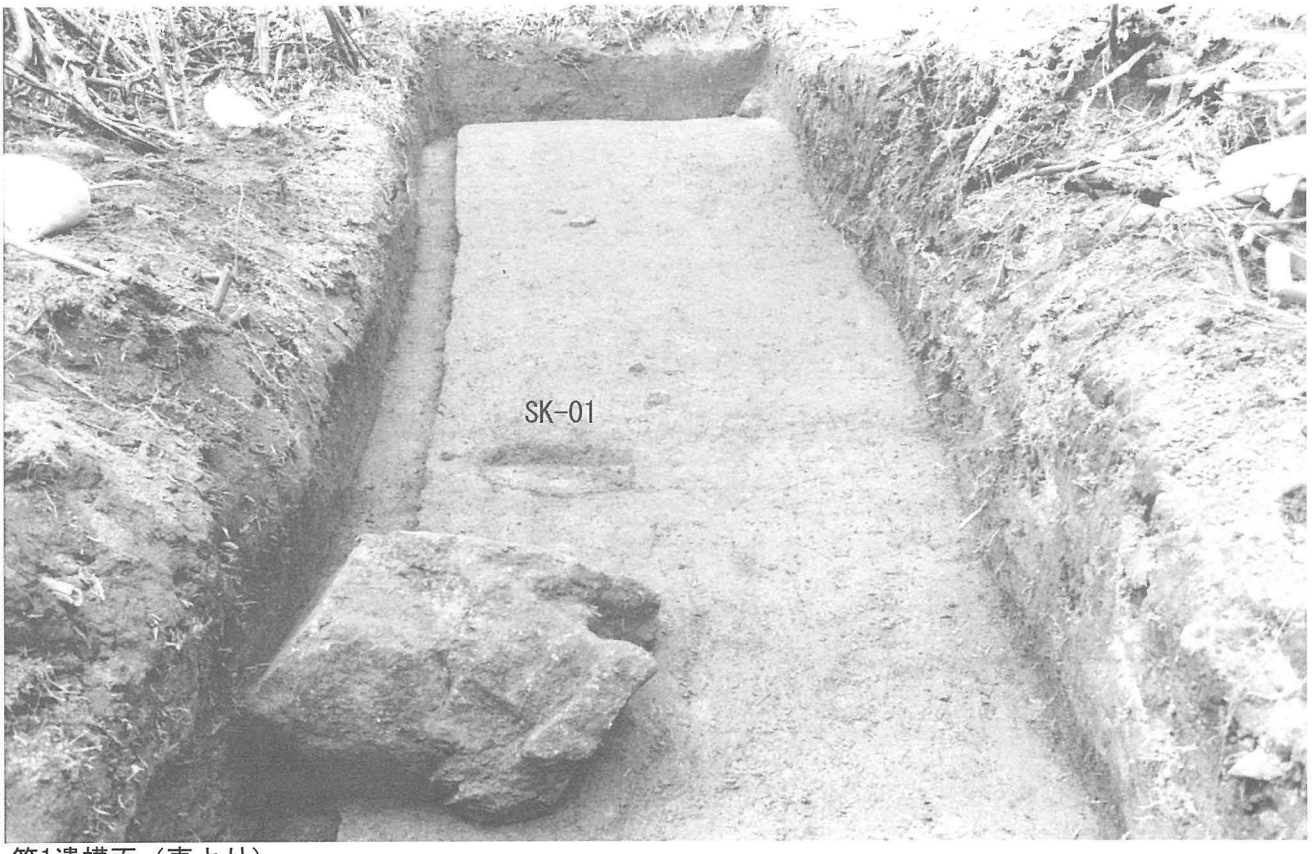
写真2　IMOI（1）

調査地全景（北より）

焼土検出状況（西より）

調査トレンチ付近露岩

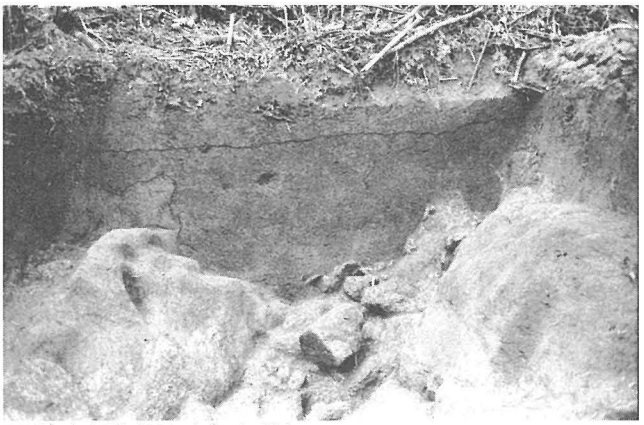
第1遺構面SK－01＜焼土坑＞（西より）



第1遺構面（東より）

写真3　IMOI（2）

須恵器杯身出土状況（北西より）


西壁土層断面（東より）

石鏃出土状況（東より）

南壁土層断面（北より）

第2遺構面＜最終面＞（東より）

写真4　IMOⅡ（1）

調査状況（北西より）

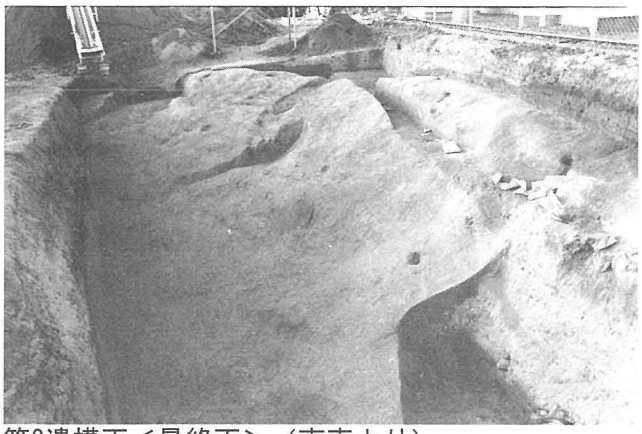
第1遺構面（南東より）

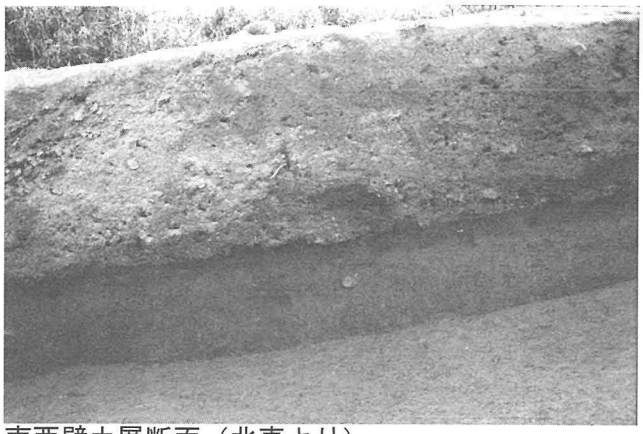
盛土除去後焼土層検出状況（北西より）

第1遺構面SD－01（南より）

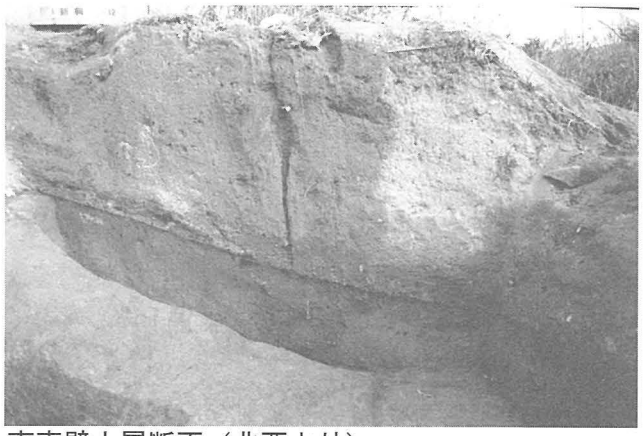
第1遺構面（北西より）

写真5　IMOⅡ（2）


第2遺構面＜最終面＞（南東より）

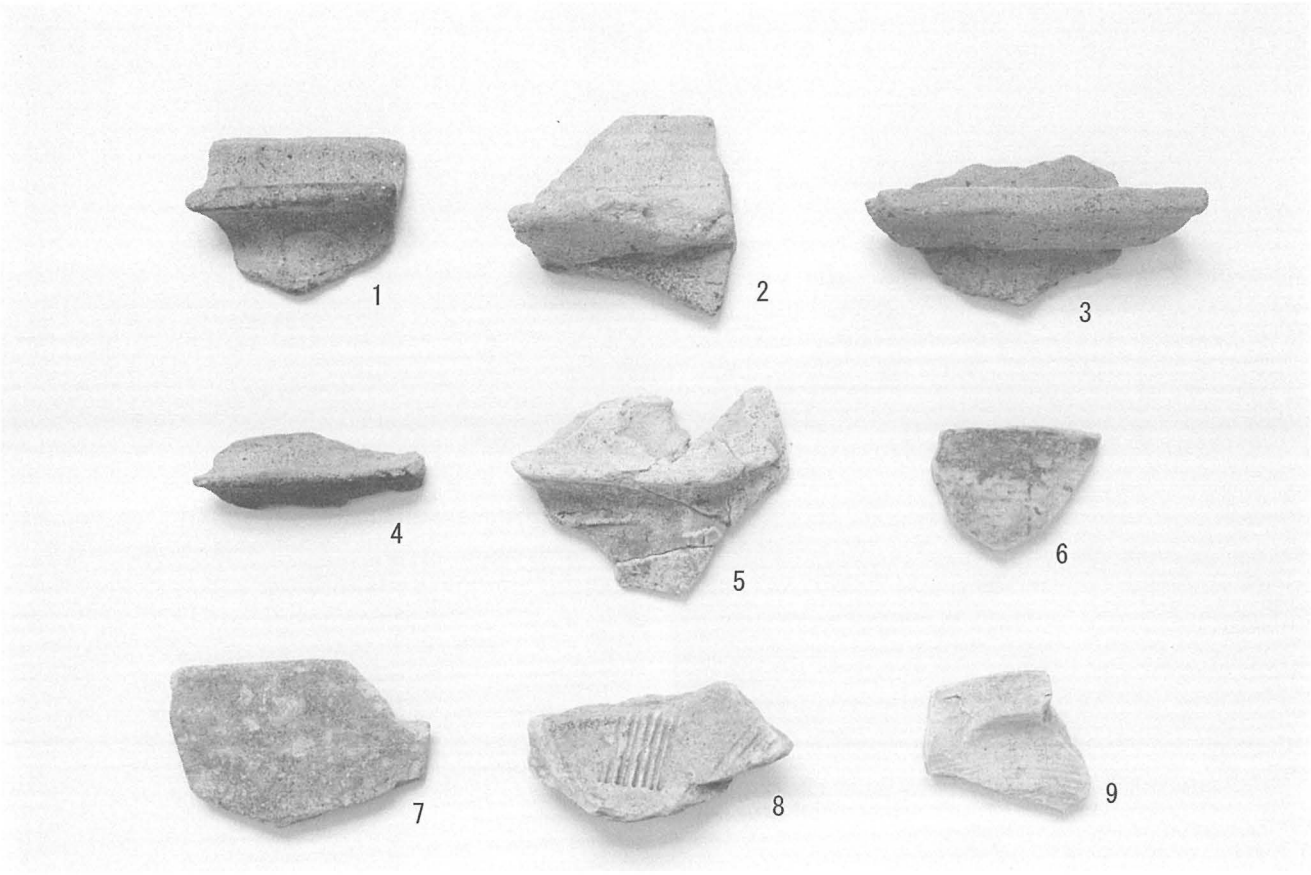

南西壁土層断面（北東より）

第2遺構面＜最終面＞落ち込み（東より）

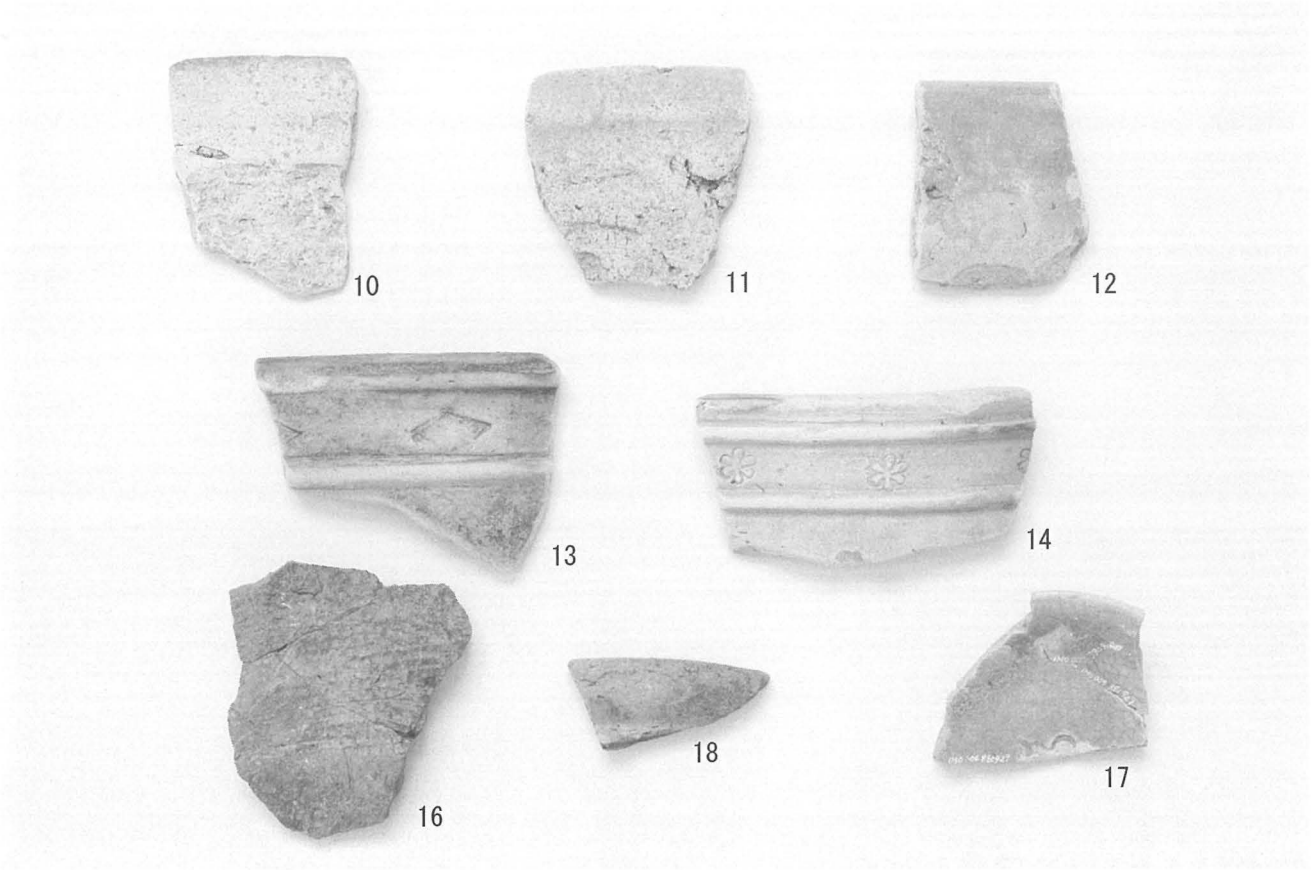

南東壁土層断面（北西より）

第2遺構面＜最終面＞（北西より）

写真6　IMO出土遺物（1）



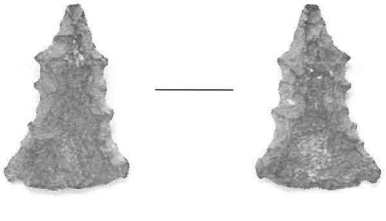
IMO I （1～4土師器羽釜、5瓦質羽釜、6・8瓦質擂鉢、7瓦質捏鉢、9瓦質鉢）



IMO I （10～12瓦質鉢、13・14瓦質火鉢、16須恵器鉢・17灰釉陶器皿、18土師器羽釜）

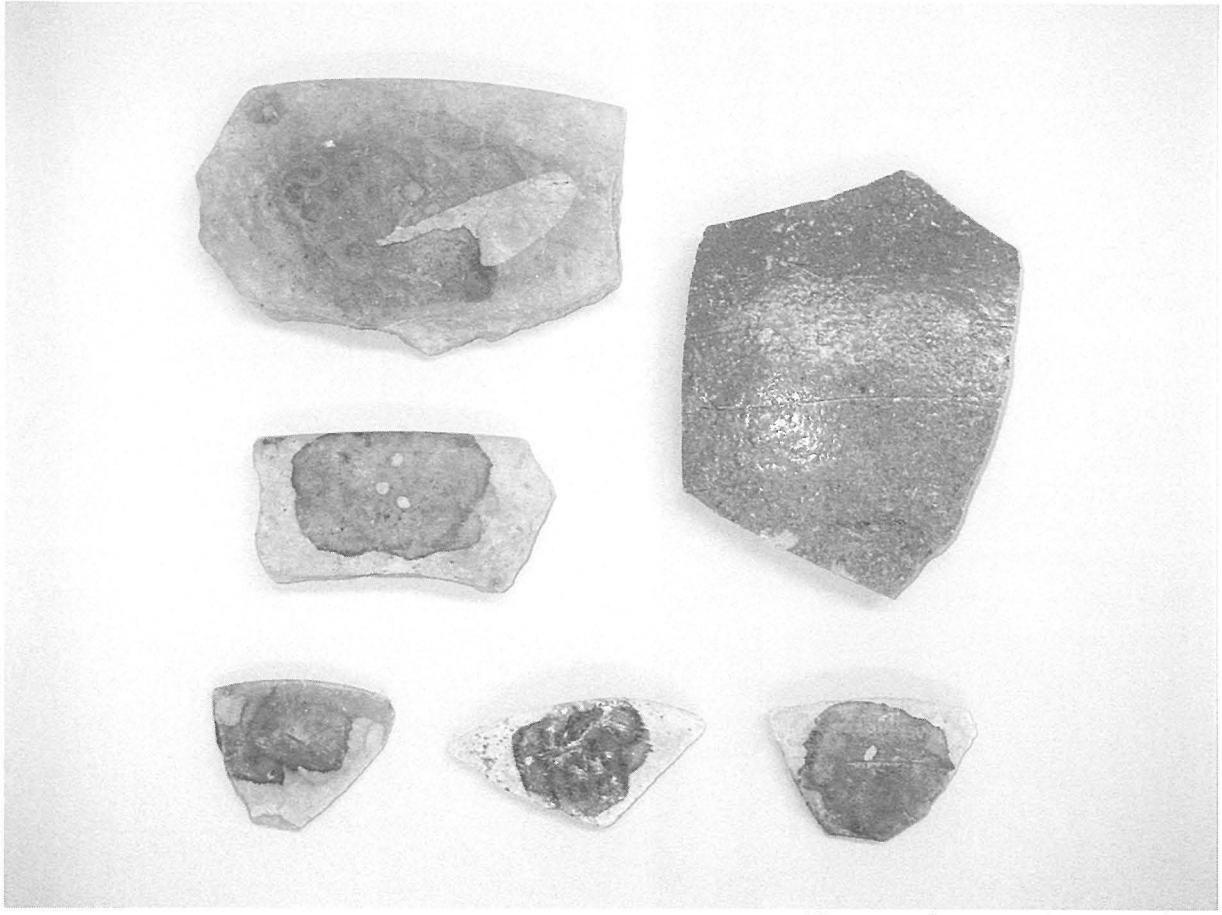
写真7　IMO出土遺物（2）

IMOⅠ（15須恵器杯身）



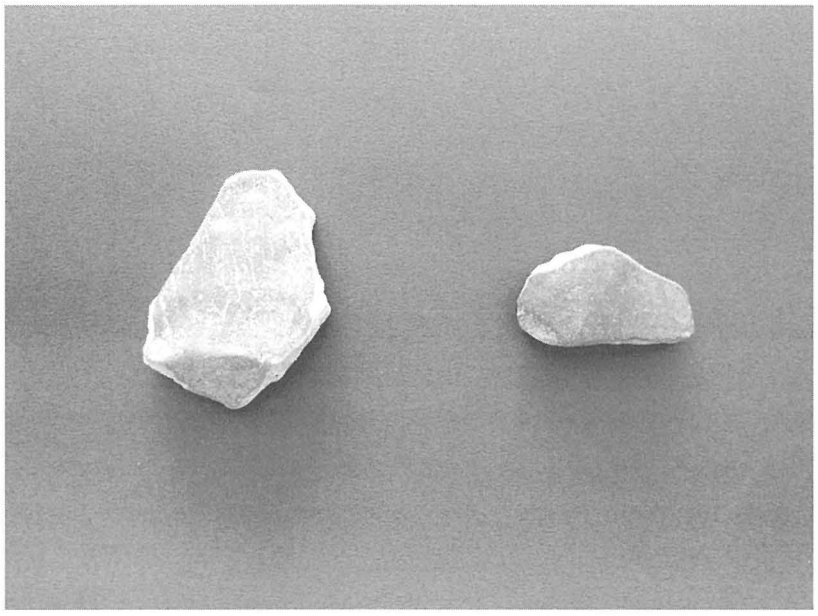
IMOⅠ（20石鏃）

IMOⅠ
（19砥石）

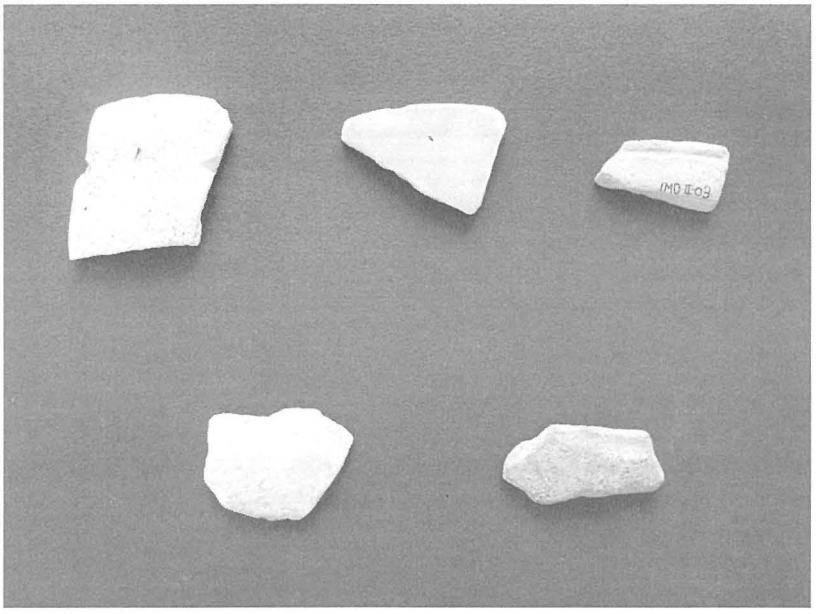


IMOⅡ（土師器・瓦質土器・陶器）

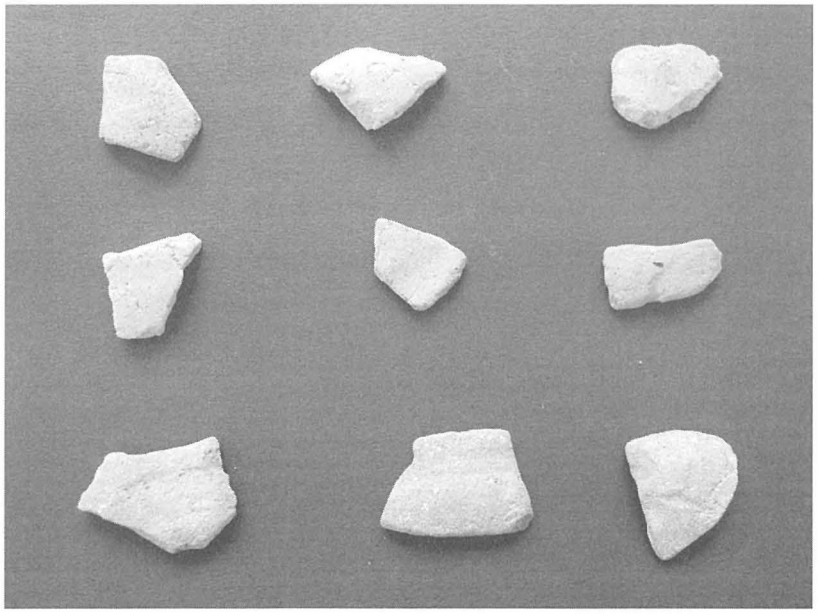
写真8　ＩＭＯ出土遺物（３）



IMOⅡ（瓦質土器片）



IMOⅡ（土師器片）



IMOⅡ（土師器片）

報告書抄録

ふりがな	いいもりやまじろいせきはっくつちょうさがいほう
書名	飯盛山城遺跡発掘査調査概報
副書名	グランド造成・ＦＭ送信所建設に伴う
巻次	
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第40集
編集者名	黒田　淳
編集機関	大東市教育委員会
所在地	〒574-0076　大阪府大東市曙町4-6　　TEL072-870-9105
発行年月日	2016年(平成28年)3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
飯盛山城遺跡（いいもりやまじろいせき）（ＩＭＯＩ）	大阪府（おおさかふ）大東市（だいとうし）大字龍間（おおあざたつま）1842-2 外17筆	27218	41	34°43′7″	135°39′24″	1988年9月26日～10月3日	30㎡	グラウンド造成
飯盛山城遺跡（いいもりやまじろいせき）（ＩＭＯⅡ）	大阪府（おおさかふ）大東市（だいとうし）大字北条（おおあざほうじょう）2377-16	27218	41	34°43′30″	135°39′14″	1989年1月9日～1月29日	72㎡	ＦＭ送信所建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
飯盛山城遺跡（ＩＭＯＩ）		弥生時代 古墳時代 鎌倉時代 戦国時代	土坑・焼土坑	石鏃・砥石・須恵器・土師器・瓦質土器・灰釉陶器	
飯盛山城遺跡（ＩＭＯⅡ）	山城跡	戦国時代	溝、ピット、落ち込み	土師器・瓦質土器・陶器	城郭（曲輪）部分を調査

大東市埋蔵文化財調査報告第40集
飯盛山城遺跡発掘調査概報
― グラウンド造成・FM送信所建設に伴う ―
2016年3月31日発行
編集・発行　大東市教育委員会
〒576-0076　大阪府大東市曙町4-6
印刷・製本　株式会社　日興商会
〒577-0005　東大阪市七軒家7番27号

印刷物番号
27－92